

**京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科**  
**フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書**

報告者氏名 吉沢加奈子

23

年度 (入学)

## 1. 研究課題:

インド、ミゾラム州における青年団の歴史変容 (1947-2011) — 分離独立運動から社会向上運動へ —

## 2. 派遣期間:

平成 24 年 1 月 12 日 ~ 24 年 2 月 4 日 (24 日間)

## 3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

申請時においては、ミゾラム州の農村地域およびマイノリティ部族の居住地域で 2 ヶ月間の青年団の調査を予定していた。しかし、インドビザ申請規定の事情により滞在期間が約 3 週間と大幅に短縮されることとなった。そこで調査地を州都アイゾウルに限定し、調査内容はミゾラム州と青年団の歴史に関わる文献収集と聞き取りへ変更した。

アイゾウルでは主に州立公文書館において、1940 年代~50 年代の資料を収集した。資料の内容は、第二次大戦中のミゾラム地域と日本軍との関係、青年団の一部メンバーによって設立された政党と植民地政府の関係、前述の政党から分離した親ビルマ勢力についての記述などである。聞き取り調査では、高齢者からインド独立運動期におけるミゾ人のインド国民軍参加や、日本軍の密偵の話などを伺うことができた。その他、前回の滞在先であったラムルン地区の青年団支部の棺桶製作や葬式に立ち会い、青年団の地域レベルでの活動をより詳しく調査した他、同支部の幹部と一般メンバーから聞き取り調査を行った。

今回得られた知見は、1940 年代~50 年代という激変の時代におけるミゾラム地域の帰属問題に対する青年団とその他の人々の動きを明らかにする上で役立てたい。

## 4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回は主に文献収集に焦点を当てて現地で行動した。データベース化されていないカタログに一つ一つ目を通しての収集には困難を極めたが、なんとか 50 年代半ばまでの資料のうち政治・総務関係部署の資料はひとつお目を通すことができた。現在、公文書館は文書整理と館内ルールの改革中であり、関係者によると今後は外国人や州外の者が資料を持ち出せなくなる可能性があるという。そのため、早期にすべての関係資料を入手する必要がある。

当初予定していた農村地域での調査の必要性については、今回の調査によってさらに実感することとなった。州都では公職に就く人の数が非常に多く、青年団幹部の本職が公務員であることも多いことから、青年団と州政府・政治家に密接な関わりがある事がわかってきた。その一方で、州都から遠く離れた農村部では公職の数は限られている。今後はそうした村落地域において、青年団と政治の関係性にどのような特徴があるのかを調査していきたい。「ミゾ人」の社会発展を目標に掲げる青年団が、自らをミゾ人に含めないマイノリティ部族の居住地域で行う活動についても今後明らかにしたいと考えている。

今回の調査で、ミゾラムの人々と日本の間に戦時中の接触があったことが明らかになった。日本近現代史への学術的貢献ともなることから、今後さらに調査を行って情報収集に努めたい。

博士予備論文提出までに再度ミゾラム州を訪れ、州都以外の地域にて最低 2 ヶ月以上の調査を行いたいと考えている。

## 5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか?

複数回の出入国や年度をまたいだ滞在が可能になれば、現地調査がよりしやすくなると思います。金額の上限を設定した上で航空券代のサポートがつくとありがたいです。各地域のパートナー研究機関から研究者を招聘しワークショップなどを開催すると、より一層パートナー機関との連携がとれ今後のフィールド調査がしやすくなるのではないのでしょうか。フィールドワークに特化した援助プログラムというのは大変希少であり、このような機会を 2 度もいただけたことにとっても感謝しております。日本学生支援機構とフィールドワーク・インターンシップ支援室、そして ASAFAS の先生方に厚く御礼申し上げます。

署名